

ワークライフ支援室活用促進イベント

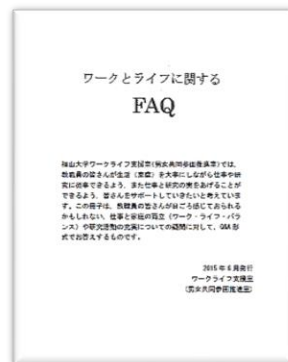
19号館1階に設置されたワークライフ支援室（男女共同参画推進室）の有効活用を図る方法として、学内にワークライフ支援室（男女共同参画推進室）の周知を図ることから開始することが提案されました。定期的にワークライフ支援室主催のイベントをワークライフ支援室で開催し、その情報を学内に発信することで、ワークライフ支援室の存在や役割を周知しました。平成27（2015）年度において、毎月第一木曜日に、講師は各学部持ち回りで、担当しました。

第1回 ワークライフ支援室活用促進イベント 2015年（平成27年）6月4日（木）16:30

演題：「ワークとライフに関するFAQ」

講師：青野敦子先生（人間文化学部 心理学科 教授）

内容：仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）や研究活動に対する本学の支援について、Q&A形式で回答する冊子「ワークとライフに関するFAQ」の紹介がこなわれました。育児や介護休暇、慶弔休暇、個人研究費、学会発表への補助、国内外への留学制度など、本学教職員が日ごろ感じているかもしれない疑問に対して、例規集を簡潔にまとめたものです。冊子「ワークとライフに関するFAQ」は全教職員に配布されました。



第2回 ワークライフ支援室活用促進イベント 2015年（平成27年）7月2日（木）16:30

演題：「ジェンダー的視点で考察する中国古典小説『金瓶梅』における生活様式と住まい」

講師：藤原美樹先生（工学部 建築学科 准教授）

内容：『金瓶梅』は中国四大奇書の一つで、当時の裕福な商人である西門慶とその正妻、そして5人の妾の生活に焦点が当てられています。藤原准教授は、金瓶梅の中の登場人物の生活様式の記述や挿絵から、それぞれの人物の部屋とそこに配置されていたであろう家具、特に椅子に焦点を当て、CG等で再現し、当時の男性の役割、女性の役割という点からの生活様式の違いが紹介されました。



第3回 ワークライフ支援推進イベント 2015年（平成27年）8月6日（木）16:30

演題：みそでストレス解消！ ～一日一杯のみそ汁の効果～

講師：瀬尾 誠（薬学部 講師）

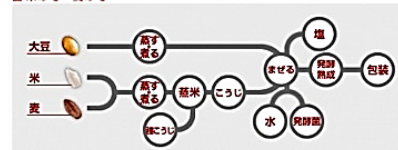
内容：2015年（平成27年）8月6日（木）に薬学部瀬尾誠講師による「みそでストレス解消～一日一杯のみそ汁の効果～」と題した研究紹介がワークライフ支援室で行われました。

日本は平均寿命が世界一長く、それは食生活の寄与が大きいといわれています。日本はストレス社会として有名であり、うつ病になる人が徐々に増えている傾向があるようです。瀬尾講師によると、うつ病の原因は食生活の変化にもあると考えられているそうです。多くの日本人が毎日摂取してきた「みそ」にストレスの軽減効果があるという内容でした。うつ病の増加は、朝食にパンを食べる人が増えたことと関係しているのかもしれない。

「手前味噌」

一昔前、各家庭ではおばあちゃんなど女性を中心に趣向をこらした自家製みそを手間ひまかけて作っていた。

■ 米みそ・麦みそ



現在、市場では全国各地様々な種類の米そや生みそタイプのインスタントみそ汁など、手軽に入手できるようになった。

しかしみその消費量は年々減少している。

第4回 ワークライフ支援室活用促進イベント 2015年（平成27年）9月3日（木）16：30

演題：禅の教えからみる英語教育

（English Language Education Through Zen）

講師：Warren Tang（大学教育センター 助教）

内容：2015年（平成27年）9月3日（木）に大学教育センターのWarren Tang先生による「禅の教えからみる英語教育」と題したセミナーがおこなわれました。Tang先生の母国はオーストラリアですが、若い頃、禅の修行を積むために来日したそうです。“禅とは何か”や、実際に修行した福井県小浜市の佛国寺や恩師である原田湛玄老師について紹介されました。禅の悟りにいたる道筋は、牛を飼い馴らしていくことに



例えて、十枚の絵（十牛図：じゅうぎゅうず）で示されるそうです。禅の教えと英語教育は、一見、何の共通性もないように思いますが、英語を修得する過程と禅の悟りにいたる道筋はきわめて類似しているという内容でした。

第5回 ワークライフ支援室活用促進イベント 2015年（平成27年）12月3日（木）16：30

演題：広島の仕事 いまとむかし

講師：木村 安美（生命工学部）

内容：12月3日（木）に生命栄養科学科の木村安美先生による「広島の仕事 いまとむかし」と題したセミナーが、生命栄養科学科や薬学部の学生も参加して開催されました。

木村先生のお話は、「広島」の県名の由来や、地域で大きく異なる広島県の気候は多彩な農作物もたらし、「日本の縮図」と称されて



いるという内容から始まり、冒頭から惹き付けられました。社会環境の変化や核家族化に伴い、家庭の中で伝承される手作りの家庭料理の中身は変化して、日本の四季を大切にした旬を楽しむ食生活や、人生や一年の節目となる行事の中でハレの日の食事をいただく機会が少なくなりました。しかし、かつての日本では、旬を楽しみ、行事の際にはご馳走（ハレの日）を食べ、日常は質素な食事（ケの日）で過ごしていました。本セミナーでは、広島県を中心とした地域に残る食文化の「いまとむかし」についても紹介がありました。

学長室ブログ http://blog.fuext.fukuyama-u.ac.jp/2015/12/blog-post_17.html

第6回 ワークライフ支援室活用促進イベント 2016年（平成28年）2月4日（木）16：30～

演題：地方都市におけるまちなかスタジアム建設の現状と課題

講師：藤本倫史先生（経済学部 講師）

内容：2月4日（木）に経済学部の藤本倫史先生による「地方都市におけるまちなかスタジアム建設の現状と課題」と題したセミナーが行なわれました。スポーツは私たちの健康の増進に役立つと同時に、プロ選手の応援は、日頃の生活に潤いと楽しさをもたらします。嬉しいことに、広島県には、野球界とサッカー界をそれぞれ代表するプロチームの広島カープやサンフレッチェがあります。ホームグラウンドで



あるマツダスタジアムやエディオンスタジアムで観戦を楽しんだ方も多いと思います。実は、この2つのスタジアムは経済効果という視点からみると大きく明暗が分かれているそうです。現在、スポーツ観戦スタジアムは進化し続けており、その地域の経済や文化を牽引する拠点としての役割も担っています。国内外のスポーツ観戦スタジアムにその事例を多数、みることができ、今回のセミナーでは、スタジアムの代表的な事例の紹介がおこなわれました。